



大宮で日本人間ドック学会学術大会開催



第58回日本人間ドック学会学術大会が2017年8月24(木)から25日(金)の2日間にわたり、大宮ソニックシティにて開催されます。

今回の日本人間ドック学会学術大会は、当クリニックの理事長中川高志が学術大会長に任命され、「生涯健康のガイドライン創り～豊かな高齢化社会を目指して～」をメインテーマに行われます。

そのPR動画をYouTubeに掲載いたしましたので、是非ご覧ください。

【 <https://www.youtube.com/watch?v=PnCbTdOemII> 】



フィリピン・セブ島の医療スタッフ研修



国際ロータリーのVTT活動 (Vocational Training Team=職業研修チーム) として、フィリピン・セブ島のサークレット・ハート・ホスピタルから医師、放射線技師3名が来日され、11/5～11/15に渡り大宮シティクリニックにて超音波検査の研修を行いました。

国際ロータリーのVTT活動は、国際貢献のために様々な取り組みをしています。2015～2016年度、第2770地区VTT活動として、フィリピン・セブ島において日本の人間ドックや健診の紹介・予防医学の重要性・超音波技術の指導及び診断方法などの知識の提供を目的として、3/25～4/3まで日本から医師、超音波検査師6名がセブ島の病院で活動してきました。そのメンバーの一員として大宮シティクリニックからも医師、超音波検査師3名が参加し、医療の知識を提供するという試みは初めてでしたので、大変喜ばれ健診の必要性などを伝えることができました。また国際ロータリーよりサークレット・ハート・ホスピタルに超音波検査機器が贈呈され、その後その機器で多くの方に検査を実施し成果をあげることができました。今回その超音波技術を更に高めるために日本での研修を行うこととなり、その研修を大宮シティクリニックが担当することとなりました。

具体的な研修内容は腹部超音波検査・甲状腺超音波検査・乳腺超音波検査の体験や症例を用いた読影、症例検討会を実施しました。また実際に人間ドックを受診していただき、予約から結果発送までの流れがシステム化されている当院の人間ドックに大変驚き感心されました。

フィリピンでは予防医学という考えが日本より浅く、健診を受けられる方も少ないのが現状ですが、将来的に必要なことを考えると研修生の方々には貴重な情報を提供できたのではないかと思います。超音波検査の研修では大変熱心に取り組まれていて活発で有意義な研修となりました。フィリピンに戻った後、今回学んでいただいた技術・知識を啓蒙活動に努めていただき普及されることを期待します。

健診本部 内山啓子



(超音波検査の研修の様子)

胃癌検診とピロリ菌 (ヘリコバクターピロリ) 検査



当クリニックは第57回日本人間ドック学会学術大会にて、「当クリニックで発見した胃癌症例とピロリ菌 (以下:HP) の関係」について検討し報告しました。

HPは、胃の粘膜に生息している菌です。それが原因で胃潰瘍、十二指腸潰瘍、慢性胃炎から萎縮性胃炎となり、さらに胃癌を引き起こすことがあります。胃癌はHP感染者からの発生率が高いとされています。

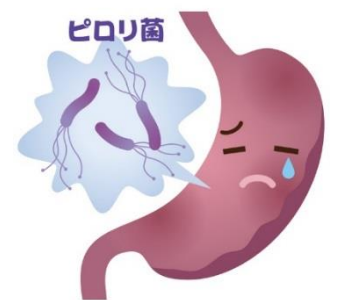
HPを調べる検査としてはいくつかありますが、抗ヘリコバクターピロリIgG抗体価 (以下:抗HP抗体) 測定は血液検査にて簡易に行える検査で、スクリーニングとしても広く用いられています。当クリニックでも以前から、オプション検査として実施していましたが、2014年4月からすべての人間ドック受診者に対して、抗HP抗体の測定を行っています。

今回の報告では胃癌症例と抗HP抗体測定の結果について検討しました。

対象は2014年4月から2015年12月までの人間ドック受診者(56,742名)の中で発見した胃癌で詳細な病理結果が得られた25名です。抗HP抗体の判定基準は、10U/mlを基準値として10U/ml未満をHP陰性(-)、10U/ml以上をHP陽性(+)としています。

胃癌症例(25名)の内訳は、HP陰性が20%(5名)、HP陽性(除菌者含む)が80%(20名)という結果でした。

これらの胃癌症例の内視鏡画像所見を見たところ、HPの影響で起こるとされる萎縮性胃炎がHP陽性からはもちろん、HP陰性でもすべてに認められました。つまり、抗HP抗体測定でHP陰性と判定されましたが、画像検査ではHP陽性と判定できる結果でした。なお、HP陰性でも、実際は除菌済みであった、抗生剤を長期服用していた為、自然消滅してしまったなどの場合は偽陰性の可能性があります。



抗HP抗体測定はHP感染の有無を判定する検査で胃癌を見つける検査ではありません。HPが陽性判定だった場合は除菌を、陰性判定だった場合でも偽陰性の可能性があるため、画像による検査も併せて実施したほうがよいと考えます。また、HP除菌者は、胃癌のリスクが減っただけなので、引き続き画像検査での経過観察が必要です。

HP感染の有無を調べて胃癌のリスクを知ることも大切ですが、胃癌の早期発見の為には、内視鏡検査、胃X線(バリウム)検査の画像検査との併用をお勧めします。

放射線部 堀越 隆之



メール配信いたします。ご希望の場合は下記のメールアドレス宛に、企業名・担当者名・メールアドレスをご記入の上、メールを下さいますようお願いいたします。ご意見・ご要望等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。

